

年度ごとの活動テーマにそって、宇宙環境を知り、宇宙基地へ至る宇宙輸送について考え、宇宙基地を建設し、宇宙基地での生活を考える。そして、自分自身の地球上での生活を振り返る。

2014

宇宙での生活 (その1) 宇宙環境の理解

真空とは、放射線、エネルギーを取得する方法、デブリ、隕石、無重力、宇宙通信、人工衛星、静電気、熱、温度、物質 (水など) のふるまい



水球をつくる古川聡宇宙飛行士
「きぼう」日本実験棟船内実験室

画像：JAXA/NASA

2015

宇宙での生活 (その2) 宇宙環境の理解

宇宙での衣食住



食事の準備をする第38次長期滞在クルー
(左からコトフ、ホプキンス、若田光一宇宙飛行士)

画像：JAXA/NASA

2016

宇宙輸送 (惑星間航行の宇宙船)

惑星間航行の仕組み
小惑星探査機「はやぶさ」から学ぶこと

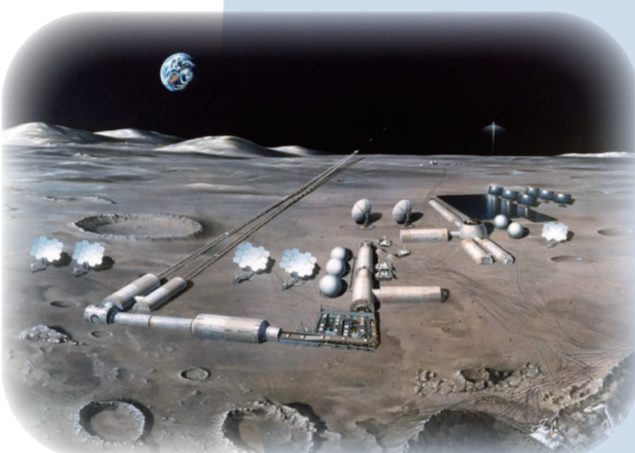


はやぶさ2 旅立ち 画像：池下章裕

2017

宇宙基地の建設

どのように宇宙基地建設をするか
材料・構造・必要な道具



月面基地想像図 画像：JAXA

2018

宇宙でして みたいこと ・私の仕事



「キューボラ」(観測窓)で船外を
写真撮影する若田光一宇宙飛行士 画像：JAXA/NASA

2019

基地の見直し (基地の改善・改良)

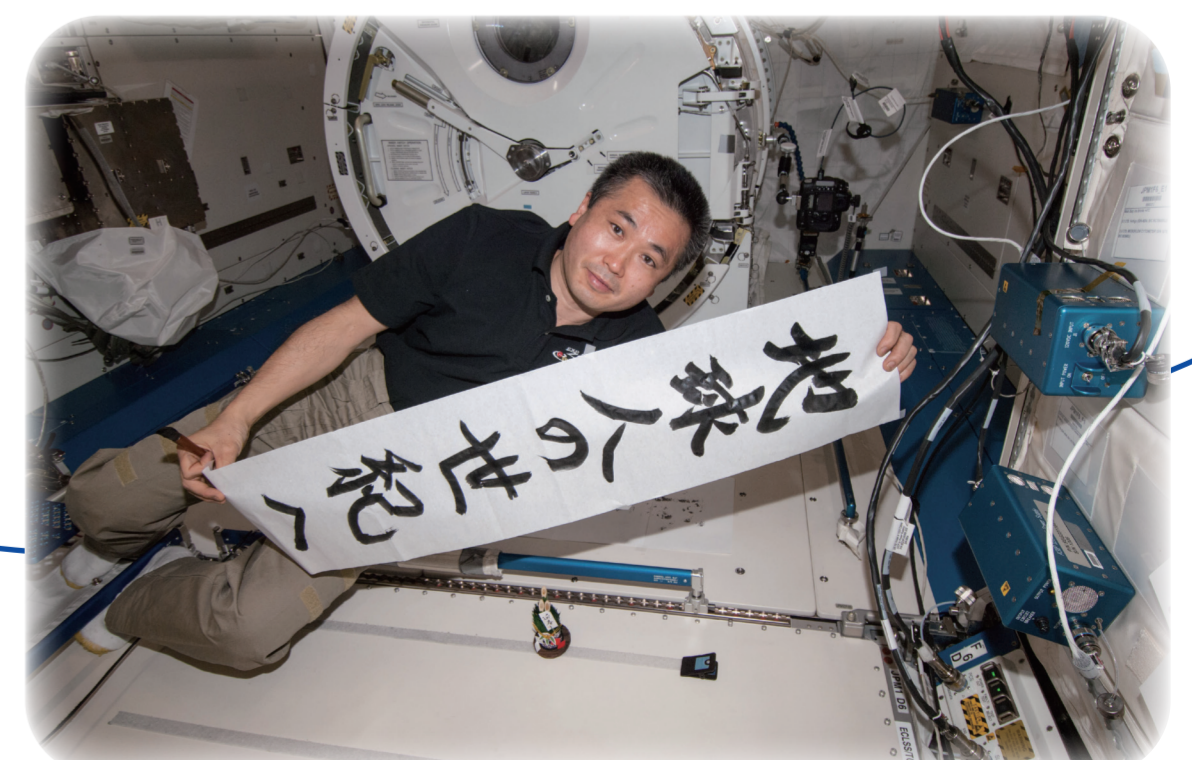
基地周辺の整備



火星基地想像図 画像：JAXA

2020

地球での生活を振り返って
今、わたしたちにできることを真剣に考える。



書初めで書いた「地球人の世紀へ」を
手にもつ若田光一宇宙飛行士 画像：JAXA/NASA



2020年 宇宙の旅

日本宇宙少年団 (Young Astronauts Club Japan) では、昨年より2020年を目標に、「2020年宇宙の旅」と題し、宇宙での生活、空気や水の問題、重力やいろいろな力、宇宙ステーション、衣食住など「もしも私が宇宙へ行けたら」をベースにやってみたいことや将来宇宙に行ってみてみたい仕事などを考え、地球上での生活を振り返ることにより大切さを考えてもらうことを目的に活動しています。このたびのYAC設立30周年記念事業を通してこれら学習の輪を広げ、宇宙時代を担う青少年の育成のための一助となることを期待しつつ継続的な活動を実施しています。

目標

記念事業を通して地域の宇宙少年団活動が連携・協力することを目指します。
将来を担う青少年の宇宙への夢や希望を育み、多くの感動を得ることのできるものとします。
将来を担う青少年が、夢や目標を持ち、あきらめずにチャレンジする気持ちを大切にします。
将来に向け継続的な効果をもたらすものとします。

宇宙時代の地球人を育てる



日本宇宙少年団

「2020年宇宙の旅」の活動についてのお問い合わせ

公益財団法人日本宇宙少年団 活動委員会 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア1008 TEL/FAX: 03-5259-8280 (代) e-mail: yacj@yac-j.or.jp